

第2回 門真市上下水道事業経営審議会 会議録

○ 日 時 令和6年10月31日（木）午後3時から午後4時30分まで

○ 場 所 門真中町ビル 会議室C・D

○ 出席者 川勝 健志 委員
菅原 正明 委員
中村 武浩 委員
妹尾 学 委員
西口 真弓 委員
中西 嘉則 委員

○ 事務局	環境水道部長	廣田 真紀
	環境水道部次長	西岡 慈敏
	経営総務課長	小野 直宏
	経営総務課長補佐	清末 恭史
	水道事業課長	山口 達也
	お客さまセンター長	松岡 直彦
	お客さまセンター長補佐	加藤 明秀
	公共下水道事業課長	野崎 正文
	公共下水道事業課長補佐	橋 幸市
	経営総務課主任	清家 恭子
	経営総務課主査	高田 賢一
	経営総務課主査	梅原 卓朗

○傍聴者 なし

○開会挨拶

【事務局】

皆様、本日は、ご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。門真市環境水道部経営総務課の清末でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

定刻になりましたので、ただいまから、第2回門真市上下水道事業経営審議会を開催させていただきます。

本日は、委員8名中6名がご出席されておりますので、本審議会が成立しておりますことをご報告いたします。

本審議会につきましては、議事録作成のため、録音をさせていただきたく存じますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

また、本日は事務局として環境水道部長以下、担当課長、担当者並びに委託業者が事務局として控えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、案件に移らせていただく前に、お手元の配布物の確認をさせていただきますと存じます。

1点目は、表紙でございます、会議次第でございます。

2点目が、資料1といたしまして「門真市公共下水道事業経営戦略（改定版）」（案）についてA4横のパワーポイントでございます。

3点目が、資料2といたしまして「門真市公共下水道事業経営戦略（改定版）」（案）の冊子となっております。

4点目が、別紙となります「第1回門真市上下水道事業経営審議会（令和6年8月7日）における委員のご意見に対する事務局の対応について」でございます。

最後に、資料3として、現行の門真市公共下水道事業経営戦略の冊子第1章から第5章部分を印刷したものを配布いたしております。

配布物の不足等ございませんでしょうか。

資料がお揃いのようなので、以下の進行につきましては、川勝会長の方をお願いしたいと存じます。

川勝会長、よろしくお願いいたします。

○案件 「門真市公共下水道事業経営戦略（改定版）」（案）について

【会長】

皆さん、こんにちは。本日も円滑な議論にご協力いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

早速でございますけれども、次第の本日の議事といたしまして、「門真市公共下水道事業経営戦略（改定版）」（案）について議題としております。

事務局の方からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それではお手元のA4横の資料1、パワーポイントの門真市公共下水道事業経営戦略改定版（案）に沿ってご説明させていただきます。

まず、門真市公共下水道事業経営戦略の改定についてということですが、財政状況と審議させていただき、経営戦略の基本理念等々につきましては第1回審議会の時にお話しさせていただいた通りになりますので、割愛させていただきます。

今回の改定の中身についてですが、基本的には総務省のマニュアルに沿いまして、3年から5年ごとの改定が必要という形になっております。その中には、国土交通省の交付要件に沿った中身の要件を満たした策定・改定が必要となっております。

今回、第2回でご審議いただく中身につきましては、10章までありますけれども、1章から5章までを第2回でご審議いただく形でお願いいたします。

第2回の会議におけるポイントになりますけど、ポイントは2つあります。

1つ目は門真市公共下水道事業経営戦略の策定後における状況の変化を踏まえた更新ということで、第1章、第2章、第4章関係になっております。2つ目が、第1回審議会での内容を踏まえた現状評価の更新および事業概要の更新ということで、第3章、第5章が該当しております。

具体的な改定内容といたしまして、第1章関係から話させていただきます。この改定の中身ですが、資料1のページが今回の改定版資料2のページになっております。現行の計画については、令和元年版のページの方が該当しておりますので、見比べていただくようお願いしたいと思います。

まず、改定の背景といたしまして、1ページ目から3ページ目までになります。経営戦略改定の背景に関する項目を追加し、門真市公共下水道事業経営戦略の策定後に生じている状況の変化を記載いたしました。合わせて題名を「策定及び改定の背景」に変更しております。

2番目、3番目につきましては、4ページ、5ページですが、こちらの方は改定なしとさせていただきます。4番目、6ページになります。

が、位置づけとして、図に位置づけられている関連計画について、現行で最新のものに更新をさせていただいております。

続きまして、第2章となります。

1つ目、公共下水道事業の沿革ということで、令和2年3月に公共下水道事業経営戦略を策定した旨を追加しております。

2つ目として、公共下水道事業の概要ということで、数値及びグラフを令和5年度末の状況に更新しております。また、新たに下水道の使用料と門真市上下水道事業の組織に関する項目を新たに追加させていただいております。

3つ目につきましては、11ページから13ページであります。改定なしとさせていただきます。

続きまして、第3章になります。

1つ目としまして、他団体との比較及び分析方法等ということで、類似団体につきましては令和4年度の地方公営企業決算状況調査における本市に類似する団体を抽出しております。大阪府内につきましては、大阪府内で地方公営企業法を適用している団体につきまして抽出させていただいております。

抽出した中身の数値の基準といたしましては、門真市の場合は令和5年度決算数値を出しております。他団体の場合は、令和4年度のを今回の会議でお示ししています。今後、他団体の部分は令和5年度のものに更新したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして第3章②といたしまして、施設管理の現状分析になります。改定版で言いますと15ページ、元年度版ですと13ページになります。それぞれ数値及びグラフ等を、更新しております。

1つ目といたしまして、下水道の処理人口普及率でございます。令和5年度における下水道処理普及率は97.9%になっております。全国的に見ても、府内平均や類似団体を見ても高い数字になっているという形であります。

次に第3章③といたしまして、有形固定資産減価償却率になります。全体的に言いますと、類似団体と比較すると高い水準ではございますが、今後更新等していけば当然この減価償却率は上がっていくと思います。計画的な維持管理によって必要な健全度を保つことを目的に考えていく必要があると思われま

す。

次に管きよの状況になります。公共下水道事業では、昭和42年度から順次管きよの整備をしております。令和4年度末での総延長につきましては、約312キロであって、そのうち約14%の管きよが法定耐用年数と決められている50年を経過しているという状況でございます。

続きまして第3章④といたしまして、職員1人当たりの有収水量を出させていただいています。こちらの方ですけれども、全国平均を大きく上回っている数値でございます。ただし、大阪府内の平均と比べますとやや低い値になっているという状況でございます。

次に職員数の推移でございます。職員の推移につきましては、平成10年頃には約40人でありましたが、現在では22人、約半数で事業を実施しているという状況でございます。

次に第3章⑤といたしまして、施設管理の分析のまとめを記載させていただいております。こちらの分析結果になりますけれども、下水道の整備は進んでいるものの、未整備地が残り、100%とは至っておりません。また、先ほど申しました法定耐用年数である50年を超える管きよは全体の14%ですが、このまま更新等していかなければ、ますます増加していくというのが課題と考えています。この後、ご説明させていただきます下水道の整備を促進していくこと、またストックマネジメント計画を踏まえて、老朽化対策を行っていく必要があると考えております。

次に第3章⑥といたしまして、経営に関する分析になります。この中身につきましては第1回の審議会での説明をもとに更新をしております。分析結果につきましては、右の表のとおりになっております。

全体的には経営的には安定しているような状況ではありますけれども、この下水道事業をやっていく資産のほとんどは負債の方で補っております。企業債、借金等で補っているところがありますので、その依存度が高いというのが今後の経営課題と考えております。

また、人口減少に有収水量の減少、物価上昇等による影響を踏まえ、費用の削減等に努め、経営収支を改善していかないと、お金はますます減っていきます。また施設の整備も進める中で、国庫補助金等の確保や企業債発行額の抑制も図る。先ほど申し上げましたように、借金ばかり増えても仕方がないという状況になりますので、そこを抑えていく必要があると考えております。

次に3章⑦ということで、下水道使用料の現状がどうなのかといいますと、令和3年1月に使用料を改定しております。月20m³使った場合、全国平均と比べ400円ほど低くなっています。また府内平均と比べると100円高くなっている状況でございます。

第4章でございます。人口の見直しになります。

人口推計の方法は、国立社会保障・人口問題研究所に公表されている将来人

口推計データの令和5年度の数値をもとに、住民基本台帳の値への補正を行い、推計をしております。今後の行政人口の見通しといたしましては令和5年度につきましては116,800人ほど、令和31年度になりますと約82,000人ほどですね。だいぶ減ってくる形ですけども、令和元年度のデータよりは少しゆるくなっている状況ではございます。

第4章②といたしまして、下水道処理人口の見通しとしまして、行政人口、先ほどの人口の推定が変わってきますので、27ページから28ページですけども、下水道処理人口及び水洗化人口の見通しは、もともとのデータよりは少し緩い形で減っていく状況になっています。やはり人口減少というのは、避けられないであろうというのが見てとれると思います。

人口が減ることにおきまして有収水量、下水道使用料になる水量の見通しも、水洗化人口が減りますので、やはり減っていく状況にございます。ただし、次のその他分、工業用水等で流す排水分の方は、過去の平均を取り、固定値といたしまして、287,000トンほどを計上して、見通しさせて頂いています。

次の第4章③につきまして、先ほど申しましたとおり、令和3年1月に使用料改定をしていますので、お金の方は上がってますけども、人口が下がっていきますと、使用料収入が減っていきますので、やはり右肩下がりになります。この辺も、今後の見通しを出していかなければいけないということになります。この3章、4章で多く関わるころの財政状況につきましては、次の第3回審議会で詳しくお話させていただきたいと思いますので、今の段階では、こういう状況になっていくのだなというように思っていたければ幸いです。

最後に第5章。ここが今日の大事なポイントになってきます。

事業としましては大きいもので3つあります。

1つ目が公共下水道整備事業でございます。昭和42年から整備事業を進めてきました。普及率は97.9%になっております。整備面積としては、まだまだ85%というところがありますので、今後もこの整備事業を進めていくというのを目標にしていくことになると思います。

現状ではどういう形になるかといいますと、計画の前半は、そこまでの差異はないのですけども、次の計画期間後半でいきますと、実は令和8年度で100%を目指す予定でした。ですが、門真市は細い道が多く、色々な事情があって、なかなか達成は難しいですけども、今後とも100%を目指して頑張っていこうというところではございます。

次に総合地震対策計画になります。最近能登でも大きい地震がありました。被災した場合、トイレが使えない、排泄ができないとすごく健康被害や社会問題に大きな影響を及ぼします。そういうことを解消していくために、平成30年度に総合地震対策計画を策定しております。また、令和5年度につきましても第2期下水道総合地震対策計画を策定するなどして、総合的な下水道の施設の耐震に取り組んでいます。

能登半島の地震の時、上水の給水活動に現地に行きました。その時に水を配ったのですが、結構現地に行った時に何を言われたかということ、トイレの場所が全部決められて、ここでしかトイレしないでください、ここでしかやらないでください、やりたかったらトイレトペーパーを持って山に行ってくださいというぐらい、トイレはすごい大事だというのが身に染みて分かった次第です。ここはすごく大事なところだなと個人的にも思っております。

災害が起きた場合の管きよの被害状況について、どのぐらい想定しているかといいますと、こちらの図の通りになります。国土交通省にあるマニュアルをもとに作った形になっておりまして、これだけの被害が出る想定をしております。約134億円分の被害が出るという想定を今の段階でしております。これを減らしていくための総合地震対策となってくると思います。

この対策については、目標に対し若干低いところではありますが、整備を進めている状況であります。計画の後半につきましても順次進めていって、少しずつ耐震化を進めていこうということになっております。総合地震対策計画の中の1つに、マンホールトイレを避難場所に作っています。

現在は5箇所の避難所にマンホールトイレを作っていますが、また今後も避難所に設置できる場所があれば増やしていくという予定になっております。こういうのを設けまして、総合的に地震対策をやっていきたいと考えております。

次が、最後の計画になります。ストックマネジメント計画であります。

昭和42年度から管きよを入れてますので、老朽化が進んでいます。老朽化が進んでいる管きよというのは、今後修繕・改築すべきところの管きよが増えてきています。耐用年数が決められているところですが、色々な状況によりなかなか、すべてを実施するのは困難です。状態の把握、どう変化するか予測、優先順位などを設定した上で、費用の最小化と資産価値の最大化を図ることを求められて、事業を進めていくというのをやっていかなければいけない。

その中で、平成30年度に門真市公共下水道事業ストックマネジメント計画を策定しております。令和5年度につきましても、これまでの内容を取り込み踏まえ、令和6年度から令和10年度の5年間を計画期間とするストックマネジメント計画を新たに作成して、下水道施設を健全化にするとともに、より安全な

下水道サービスを提供したいと考えております。

本市の下水道施設といたしまして、管きよの状況でいうと、布設後30年以上経過しているのは約120キロ、全体の約38%です。50年以上になりますと約44キロになって、先ほどの14%になります。マンホールの蓋は、耐用年数を超えているのが全体の約74%。かなりの数が超えている状況であります。引き続き、施設の点検等を実施して、改築することが必要と考えております。

最後になりますが、ストックマネジメント計画の進捗状況の方は、マンホール蓋、管きよの点検を行っております。概ね計画目標値よりも多く、点検等進んでいる状況でございます。

後半の目標といたしましても、今後も点検等を行っていきながら、令和8年度には一部改築する予定になっております。このようにして安全な下水道事業を運営しながら安全な排水ができるように努めていきたいと思っております。資料1の説明の方はこちらで終わらせていただきます。

もう1つ、別紙とあります第1回上下水道事業経営審議会で委員の皆様に頂いたご意見に対する事務局の対応についてということで、ご報告させていただきます。1番目、2番目のご意見につきましては、ご意見の内容を踏まえまして、計算の中身を書く等、先ほどいくつか出てきました中身で示させていただいております。

3番目の財政計画につきましては、次の第3回で、いただいたご意見をもとにご審議いただくことになります。よろしくお願いいたします。

4番目につきましては、市民の皆様ができることは、使用料の納付のほか、市民の方に対する協力というところもありますし、実際、下水道に関するご理解について、市民の1人として、いろいろ話していただけたらと思っております。

最後の鴻池水みらいセンターでの施設見学というところで、ご希望の方がおられましたら、我々も一緒にご同行させていただいて、施設見学等を計画したいと思っておりますので、後日皆様にご意見をお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、事務局からの説明を終わらせていただきます。ご審議の方、よろしくお願いいたします。

【会長】

ありがとうございました。ただいま事務局の方から、今回の改定で主にはどういったところが改定されるのかということのポイントを中心にお話しいただきました。改定版の方でいうと、第1章から第5章が本日の審議の対象という

ことになります。

それから最後にご説明いただきました前回の審議会の中で皆さんからご意見いただいたことに対する事務局サイドからの対応ということで、ご説明をいただいておりますので、これも合わせて皆さんの方からもしご質問やご意見がございましたらご発言いただければと思います。

ご自由にご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

説明を聞いていて気がついたんですけども、今の説明資料の資料1ですね。パワーポイントの11ページで改定案の資料2の17ページ。これの表のですね、真ん中の有形固定資産のところの評価。資料2の方では×になっていて、このパワーポイントでは△になってるんですけども、こちらはどちらが正しいでしょうか。

【会長】

事務局、ご回答お願いしてよろしいですか。

【事務局】

パワーポイントの方が正しいということでよろしく願いいたします。

【会長】

ということは、△が正しいということですね。

【委員】

パワーポイントの方の1番最後の26ページですけれども、今後の予定の下の方ですけれども、2番目の本管調査工の単位は抜けていますがメートルですね。目標値の数値が数メートルまでの細かな数値が入っていますが、これはストックマネジメント計画の数字がここに上がってきているということですか。

それと経営戦略は令和11年度までなんですけれども、ここにこの表で目標値が入ってないんですけども、ストックマネジメント計画は10年度までで、11年度を抜かしているということですか。ただ、今回の経営戦略では11年度までの計画ですから、その事業費も含めて、立てないといけなのではないですか。

【会長】

事務局の方からもし何かご回答できるのであれば、お願いします。

【事務局】

ご質問にありました令和10年度というのがストックマネジメント計画で、今

決めているのが10年度までなのですけれども、11年度以降についても、ストックマネジメント計画は続いていくものになりますので、数字としては入れることは可能かと考えております。

【会長】

今回の改定版では、この11年度のところの数字は入れないということなのか。入れる予定だけれど、今は空白にしているということですか。

【事務局】

当初の予定では、きっちり決めていたのが10年度まででしたので、入れていなかったのですが、ストックマネジメント計画はずっと続いていくものですので、一定数量というものは出せるかと思っておりますので、今後記載していきたいと考えております。

【会長】

わかりました。ということは、最終版では記入されるという理解でよろしいですか。

【事務局】

はい。

【会長】

その他、皆さんからも、どうぞお願いします。

【委員】

2点ばかり質問させていただきたいと思います。

パワーポイントの資料の15ページですけども、右側の表で水洗化人口の見通しということでグラフが書かれているのですが、折れ線グラフで水洗化率を表示されているのですが、この表を見る限り、横ばいになっています。本来水洗化率というのは当然100%を目指して増えていくはずなのですが、なぜ横ばいなのかなっているのが1点です。

それから、パワーポイントの25ページなのですが、老朽化した管きよの延長を書いているのですが、老朽化管きよの調査は全て完了しているのかなということと、もし調査をされているのであれば、その調査の結果、補修が必要な延長というのは一体どれぐらいあるのかなという質問でございます。

【会長】

ありがとうございます。大きくは2点ということでございますけれども、資料でいうと15ページ、それから25ページです。この2点について、いかがでしょうか。

【事務局】

水洗化率については直近が99.6%で推移しているので、そこを一応横ばいとしてさせていただいていただき、目標としてはもちろん100%を目指すべきだと思っております。ご指摘の内容で現状見直しをしているというところがございます。目標としては100%というところをお願いいたします。

【事務局】

2つ目の質問の、ストックマネジメント計画での老朽化調査が終わっているのかという質問なのですが、重要な部分については終わっているのですが、すべての管きょについてはまだ調査が終わっておりませんので、記載はしていない状況になっております。

【委員】

重要な路線については特にそういうことだと思うのですが、もし調査した結果、保守が必要ということになれば、将来の投資事業費の方に響いてくると思いますので、その辺どうするかというのがこれからの課題かと思いますので、ご検討いただけたらというように思います。

【会長】

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

【委員】

パワーポイント2ページのところで、そもそも経営戦略の中間見直しということで、1つは総務省のマニュアルに従って、3年から5年ごとに改定するということと、もう1つは国土交通省の社会資本整備総合交付金の交付要件を受けるためには、この要件を満たして出さなければいけないと思うのですが、この交付要件ではこの下に書かれている3つですね。使用料の改定必要性に関する検証と、ロードマップの策定と、検証結果を公表するこの3点だと思うのですが、この3点に関しては次回の議論ということで良いですか。

今日の資料の中には、この改定の必要に関する検証ロードアップの策定は入っていないと思いますが、それでいいのでしょうかということと、検証結果を公表するのは具体的にはどういうイメージなのかというのを教えていただければと思います。

【会長】

事務局お願いいたします。

【事務局】

まず1つ目の質問に関しましては、交付要求のところは、財政状況に大きく関わるところでございますので、説明といたしましては次回という形になります。

公表につきましては、今回ご審議いただいて、審議会そのものを、ホームページ等に公表するのと、最終的にはこの改定版というのをホームページ等で公表したり、国土交通省に提出したりとかいう形にしますので、そこをもって検証をしていただいたという形で代えさせていただきます。

【委員】

審議会の内容を公表することがこの公表という意味ですね。

【事務局】

それでよろしく申し上げます。あと、少しだけ補足しますと、改定版を策定しますので、そちらの方も公表いたしますので、それを以て対応していきたいと考えております。

【会長】

その他の皆さんから、何かございますでしょうか。

【委員】

資料1の21ページのところです。地震による被害想定というのが、レベル2という震度7ぐらいのところを想定した時の被害率や最大被害率想定額ということだとお聞きしているのですけれども、今回の耐震計画によってどれぐらいを抑えられるものなのか、すぐ全額というか、すべてリスクケアできているのか。そのうちの何パーセントぐらいが今回の想定している事業によって対応できるような見通しを立てているのかというのが少し曖昧だと、読んでいて思いましたので、そこを回答いただきたいです。

また、23ページのところのマンホールトイレの設置というのは、避難所にもともとマンホールトイレ設置用の接続できるような下水道の接続部分を用意してあるということですか。下水に直接つながられる部分を用意しておいて、地震があった時に追加するようというのと、つなげる所の避難所の耐震というのは確実にされているのかというところが、気になったところですね。ここが耐震していなかったら意味ないと思うので、2点気になったところですね。お願いします。

【会長】

ありがとうございます。確認ということで、いくつか挙げていただきましたので、事務局の方からご回答いただければと思いますが。

【事務局】

まず一つ目の質問の被害想定の子ですね。この事業によってどれくらい軽減されるのかという見通しなのですけれども、パワーポイントの22ページに、今後の耐震化率上昇の目標を記載しておりまして、0.5%ずつアップしていくというところで、実際、その0.5%がどれくらいの距離なのかというところになった時に、だいたい年に200～300mずつ進んでいくのかと。200～300mずつしか進んでいかないというので、逆算するとそれだけの年数がかかってしまうかなというところで、いつ終わるかまではなかなか見通せないという状況にはなってしまうと思います。

続きましてマンホールトイレについては、基本的に避難所が小学校とか、中学校が避難所になっておりますので、その周辺の道路では下水道の整備がされておりまして、その下水道から、学校の中に新たに下水道管を引き込むということをしております。だいたい避難所でメインに使えるのは体育館でありますので、体育館のそばにマンホールトイレを今現状設置しているところでありまして、基本的には下水道管の上に小さいマンホールをずらっと並べるということになっております。その上にテントを張って、便器を置いて、使用できるように整備を行っております。避難所までの管についても、優先順位を決めて、耐震化に取り組んでいくことを考えております。

【委員】

現状はまだ耐震化はされていなくて、今後優先的に進めていくということですか。

【事務局】

そうですね。耐震化が進んでいるところもありますし、全然進んでいないところもありますので。市の公共下水道は流域下水道に接続する管までで、そこまでは市の方で耐震化を進めていくというところで考えております。

【会長】

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。〇〇さんももしよろしければ。何でも結構ですので、感想などでも大丈夫です。

【委員】

一番関心があるのは、回答いただいた件で、下水道事業について市民として何ができるのかというのを問いかけたところ、使用料の支払いというのはもちろんなのですが、滞納されている方は実際どれぐらいいらっしゃるのでしょうか。

噂に聞くとところによると、水道はライフラインの中で最後まで滞納してても止められないということを聞いたことがあるので、どれぐらいいるのか、本当なのかということと、あとは、マンホールトイレの件にしても、うちの近所の小学校はないので、公園とかはないのかなと思ったりしています。あとは、自分の家でポータブルトイレというのを買ったのです。水等は多分、皆さん、備えてあると思うのですが、やっぱりそういう家庭でポータブルトイレも呼びかけていってもいいのかなと思ったりしました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。質問とご意見と両方いただきました。事務局の方から、特にご質問に対して、ご回答いただけたらと思います。

【事務局】

収納率ということですが、下水道使用料につきましては、水道料金と一緒に収納させていただいております。だいたい1年目で89.6%ぐらいまでで、時効が5年ありますので、それまでにだいたい99.4から99.5%までは収納させて頂いております。

あと給水停止のことですけれども、これは検針3回、だいたい6か月滞納されたら給水停止の対象になるという形で実施しておりますので、よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。ということで一周回ったのですけれども、もし、さらにご質問やご意見あればと思います。

【委員】

今トイレの話が出て気がついたのですが、資料2の36、37ページで、総合地震対策のところに載っているのですけれども、一番上に計画期前半のところで、進捗状況、細かい数字の話ですけれども、2段目の耐震化率が37.7%から39.15%へ上昇しましたということです。37.7%というのは令和2年の目標値ですね。その前に何か数字があって、そこから39.15%へ上昇したということではないかなと思うのですけど。

もう一点、重要な幹線等の耐震化率というのは毎年耐震化をやって、ずっと今後も伸びていっているのですけれども、マンホールトイレにつきましてはこの

表を見ますと、今全体で6か所やっていて、計画に外れている学校が1か所あって、5か所が完了しているということなんですけど、右の方に避難所の一覧が載ってまして、これでは随分できてないということになっているのですが、この計画の令和11年度までに、表はついてないのですが、マンホールトイレの設置計画をつけた方がいいのではないかと思います。もう何もやらないということではないと思いますので、その辺はどうなんでしょうか。

【会長】

事務局の方にご回答お願いしたいと思いますが、お願いします。

【事務局】

1つ目の耐震化率のところの文章ですね。37.7%から39.15%が令和2年度の目標値ではないかというところなんですけれども、表にはないんですけども、令和元年度の耐震化率が37.7%であったというところで、その目標値の数値と被っているのは前回の時も説明させていただいたのですが、数値の計算に間違いがあったというところがございます。

マンホールトイレの整備については、引き続き実施する予定にはなっているのですが、門真市の小学校・中学校が避難所になっているということと、その小学校・中学校が統廃合の検討をされているところで、設置してもすぐの場合によっては撤去しなければならない、国費を返さなければならないというところがありますので、その辺の協議の状況を見極めながら、より効果の発現が長くできるような避難所を選んで設置していこうというところで考えております。

【会長】

ありがとうございます。ご回答いただいたのですが、いかがですか。

【委員】

これはゼロということですが、審議会で事業費等を検討していくことになると思いますが、起債等については、どう考えているのですか。

【事務局】

マンホールトイレについては、整備を予定しておりまして、概ね5年間で8か所程度つけたいというようには考えているのですが、学校の統廃合の絡みで予定通りに進むかどうかというのは検討しているところです。

【委員】

一応目標値で上げられた方がいいのではないですか。ダメだったらダメとい

うことで。実績値も書くのでしょから。それと門真市の総合地震対策計画にも当然上がっているのですよね。

【事務局】

総合地震対策計画の方には、8か所程度つけるというように上げておりまして、こちらの経営戦略の方には記載がないので、その辺はまた検討したいと思います。

【委員】

8か所というのは、この今すでに終わっている5か所プラス8ということですか。

【事務局】

プラス8です。

【委員】

それはぜひ上げておいた方がいいのではないかと思いますけども。

【会長】

ありがとうございます。具体的な数値目標を設定した方が望ましいのではないかというご意見でした。次回、事業費を積算して、財政シミュレーションされると思いますので、その意味では根拠になる数値目標があった方がいいのかなというように、私も思いながら聞いておりますけれども、何らかの事情で難しいということであれば、またその旨ご説明いただいたらと思います。その他、いかがでしょうか。

【委員】

パワーポイント21ページなんですけど、先ほどもお話を聞いてみて、最大被害率13.5%で最大被害想定額が約140億で、マックス行くと1000億円かと、このような想像して勝手にビックリしていたのですが、経営戦略の方、前回の資料3の経営戦略を見てみますと33ページですけど、割と詳細な図が書かれてありますが、最大と最小と平均という書き方をされているのですが、この情報があれば、なんとなく133億というのも安心して見れるかなと思ったのですが、最大値の133億だけをバンと出してしまうと、びっくりするとか、ビビってしまうので、前回令和2年3月に書かれた程度の情報があったほうがいいのかと見比べて思いました。

あと、これがアピールになるかどうか分かりませんが、前回の最大想定額151億円について、今回133か134かわかりませんが、表は3で本文は4に

なっていますが、最大被害額が下がっているということは、改善しているというか、耐震化が進んだから改善したのかなと勝手に想像しているのですが、もしそういうことがあるのだったら、前回よりもマシになっているみたいな書き方ができないかなと思いました。

【会長】

今ご指摘いただいた点についてはいかがでしょうか。

【事務局】

まずは想定表ですね。平均・最大・最小というところですが、事務局の方で勝手な判断ですが、最大があればいいのではないのかというイメージで記入しているところがございます。審議の中であった方がよいということであれば、もちろん戻すことは可能であります。

続きまして、想定額が変わってくるというところの部分なのですが、こちらの方も、耐震化を進めた効果が出ているのかなというところですが、それにしたら上がりすぎているのもありましたので、また確認して報告させていただきます。

【委員】

最大だけ書くのがいいのか、逆にご意見を頂いた方が良いかと思うんですが、個人的には、最大だけ出すとビビってしまうというか、すごく被害を受けそうなニュアンスがありますので、そういうのもあるということであれば、前回通りの出し方の方が安心感を与えるかなという感覚はあります。

【会長】

この点について、他の委員の皆さんもしよろしければ、ご意見ください。

【委員】

質問というか意見なんですけども、先ほど21ページに書かれているその被害延長は42.05キロになっていて、これを対策していくということで事務局からご説明があったのですが、一方で先ほど聞きました25ページの接続50年を経過している管きょも44キロあるということです。これがどれくらいその被害延長のところとラップしているのかわからないですけど、考え方によっては、老朽化対策と、地震対策が同時にできるということになりますから、うまく工夫すれば、国のお金もついて、もう少し頑張って仕事できるのではないかなと思いますので、頑張って対策されたらどうかという意見でございます。

あともう1点ですね。マンホールトイレの話が先ほどから何回も出ているのですが、一生懸命マンホールトイレを作っていただくのはすごくいいことだ

と思うのですが、結局、実際、地震が起こってですね、この通り使った時に、みんなが大便されて水を流さないと管が詰まってしまうのですね。だから流す用の水っていうのが必ずないと、せっかく作ったのに詰まってしまって使えないということになってしまうので、用水の確保という点でも、これはあまりここに書く話ではないかもしれないですが、BCP（業務継続）計画等で、しっかり用水確保というところも検討していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

今、マンホールトイレのところばかりで申し訳ないですが、大量に、連続で同じ場所を使われるというようになった時に、衛生的な側面から、例えば感染症等の対策があった方が、よりリスクが下げられるのかなというように思いますので、その辺も検討されておいた方がいいのかなと思いました。

もう1点気になったところなのですが、最初の2ページのところの国土交通省の交付要件というのは、この要件を満たせば必ず交付金は基本的に下りると考えていいわけですか。交付要件を満たした上で、確実に交付される確率を上げるためには、具体的にどういったことが必要になるのかというのを確認しておきたいと考えたのですが、いかがでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。前半の方は先ほどの〇〇委員と同様にご意見いただいたということで、最後の点についてはテクニカルな話になりますが、事務局の方でもしご回答いただけることがあれば、何かお願いしたいと思いますが、現時点で何かお考えがありますか。これまでの経験を踏まえて。

【事務局】

マンホールトイレの話で補足させていただきますと、用水の話があったのですが、これまで5か所の避難所につけたマンホールトイレについては、基本的にはプールの水を使うというところで、プールと体育館のそばにマンホールトイレを作って、プールからポンプで引っ張ってくるという想定で作ってございましたけれども、現在本市では、各学校のプールを廃止というところで考えておりますので、今後については、マンホールトイレのそばに貯留槽を設置して、水を確保しようと考えています。

交付金の関係については、こういうことをすれば交付金の対象になりますよというだけでありまして、それをどのように増やしていくかはなかなか難しい課題ではあると考えております。具体的にこれはというのはお答えできる状況にはないです。

【委員】

前回も同じ話をさせてもらったのですが、ただ今ご説明いただいた通りですね。交付要件というのは、あくまで交付金を適用しても良いという条件だけであって、100万くれと言ったら必ず100万あげますよという約束にはならないということです。

国の方に、きちんと交付金をつけてくださいと要望活動をやっております、首長さんもお参加いただいて年に1回、2回とは行っているんですが、ぜひとも門真市長さんにもご参加いただきまして、要望活動していただくと、従前よりたくさんつく可能性があると思いますので、ぜひご検討いただけたらと思います。

【会長】

もちろん、その要望活動は不可欠ですし、どこの自治体さんでもやっていることですから、できる限りやっていただければと思います。今の話題に引きつけてあえて言うならば、当然ながら要件を満たすことは最低限やらなければいけない努力なんですけれども、お話の中にもありましたように、これは完全に不確実な財源ということになりますので、交付されなかったという場合に、どういう形で財源を担保するのかということを、市としては想定、準備をしておかなければいけないということは、一方で重要なことだと思います。

財政面に関しては、また次回ということですので、これ以上の話をしても仕方がないのですけれども、常に財源について不確実要素があるということであるならば、その代替財源について、市の中で捻出できるように考えておかなければいけないですし、場合によっては、あらゆる事業ができないということになった場合の優先順位付けをどうするのかということをも市として考えておく必要があるとは思いました。

その他、皆さんの方から何かございますでしょうか。

本日の事務局からご説明いただいた内容で言いますと、特に先ほどから何度もその耐震の話であったりだとか、マンホールトイレの話だったりとかですね、第5章にあたる部分ですね。今後の主な事業概要というところに、皆さんから、それぞれ具体的なご指摘、あるいはご意見をいただいているかと思えますし、本日はそういったところで積極的にご発言いただければと思っていたところでもありますので、さらに、追加的にご意見があると、あるいはご質問したいということであれば、ぜひいただきたいと思えますけれども、いかがですか。大体この点については、言い尽くされましたでしょうか。

頂いたご意見は事務局の方で、一度検討いただいて、ご指摘の内容について、どういう形でこの経営戦略の中に入れ込むのか、あるいは今回は見送るの

か、そういったことも、また次回、お示しいただいたらと思います。

それから、今日皆さんからご意見をお伺いして思いまして、今申し上げたこともそうなのですが、今回の改定にあたって、基本はデータのアップデートということになっているのですが、同じことを言うのでも、少し見せ方に工夫があるのではないかというご意見も結構出ていたように思います。

先ほどの交付金の話で言うと、交付金をいただくための書きぶりみたいなことも意識はしないといけないと思うんですが、より重要なことは市民の皆さんに対して、しっかりとわかりやすい内容で、何をしたいのか、どういう現状にあるのか、どういう課題があるのかということをお示しすることだと思いますので、そういう目線での書きぶりというところにも留意が必要なのかなと思っています。

なぜそのようなことを申し上げているかと言いますと、先ほど〇〇委員の方から言及がありました、パワーポイント資料の15ページの水洗化率の話がありましたね。あくまで目標として100%を掲げてはいるものの、見通しというところでは99.6%にとどめておられるということについては、これは見通しの時間軸がR30年と、結構先のことなので、R30年になっても横ばいになっているというのは、0.4%という埋めがたい何かがあるのかが気がかりになってきたりします。

あくまで目標なので、残念ながら達成できませんでしたということがあっても致し方ないと思うのですが、少し長い時間軸でお示しされているということと考えますと、どこかで100%を想定していても、見せ方としては悪くないのではないかなと個人的には思いました。もし何かお考えがあれば、ぜひお聞かせいただきたいということが1つです。

続きまして、もう1点思っていたことですが、添付の資料で申し上げますと12ページですね。この間の経過を踏まえて、12ページの表のような評価をある種経営面での検証結果みたいなことをまとめているのですが、この中でこの使用料単価というのがあります。この目標が、低ければ低い方がいいということで、評価としては×ということになっています。

確かに市民の目線から言いますと、安いに越したことはないということになるのですが、経営面から見た時に、料金改定をされたということは、経営改善の努力をされたということでもあるわけなので、そういう意味でこれが評価として×にすることが相応しいのかどうか。もちろん、この単価が異常に高いとか、適正価格なのか、何をもって適正というのかなど悩ましい問題があるのですが、ただ、非常に高く設定されているとか、何の根拠もないとかでない限りは、経営改善に資する努力をされた結果、この数値である。そしてその範囲がもし適正な範囲にあるということであるならば、これを×と評価

するというのは、どうなのでしょう。

他の指標は、経営面から見て○×△というのをつけておられるのですが、どちらかというと使用料単価というのは、市民からしたら安い方がいいという観点になっていて、評価軸が一貫していないような印象も持ちました。評価の仕方、言い換えると見せ方という意味で、これでいいのかというところは、個人的に気がかりになりました。この2点について、もし事務局の方で考えがあれば、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

会長がおっしゃる通り、見せ方というか、どの方面から誰に対してという伝え方が非常に難しいところではあります。この表については経営者側という目線で見えていますので、楽観視しては決していけない。特に料金改定したものの、下水道事業会計が潤っているかというところではない。起債に頼っている部分があれば、国費を入れていくという状況の中で、使用料単価について改定したもののところで見えていただいて、かといって経営努力してないかと言われると、そうではないところもありますので、見せ方としては正直、若干厳しめにいくところかと存じます。

ただ当然市民の方に見ていただく状況になりますので、今後、第3回会議で資料の見せ方や伝え方は審議していただきたいと思います。具体的に、このようにやりますよというのは言えない状況ではありますし、色々な指標がありますので、なかなか難しいと思いますが、このページのみならず、ほかのところも多分そうです。

会長がおっしゃられているのは、いろんな見せ方だということかと思いますが。冊子全体を通して、色んな手法をこらしながら、ご意見いただきながら、色んな目線に立って、どういうやり方がいいか、どういう書きぶりがいいかということを考えながら検討していきたいと思います。

そういった意味でまたご意見いただければと思います。はっきりした答えが出せなくて申し訳ないと思いますが、今後ともご意見いただいた中身で、作っていききたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

水洗化率についても、そういう感じですかね。

【事務局】

そうですね。結局、目標というところと言うと、100%にはなりますけど、ここに記載している部分でいうと、今横ばいになっているまま、最低限このぐらいというか単純に平均をとらせていただいているということで、見せ方としては、あまり上手くなかったのかなと。

ただ、水洗化していただくのは、どうしても相手方があります。市民の方の費用を使いますので、市から積極的にアピールします、お願いしますというところになりますので、その辺、どういうふうにやっていくかという手法も含み、目標値としてどのような出し方をするかというのは検討して、また出させていただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。基本的にはまず事務局の方で今一度精査と言いますか、検討していただけるということで、ご回答いただいたかと思います。先ほど使用料単価について言及したことの補足をしておきますと、12ページの表で、私が申し上げたかったことは、要するに料金改定というのは、経営面から見た時に、改善の努力をした1つの形であるということです。

今、同じように指標として設けられている経費回収率やその他の指標についても、料金改定の影響を受けてこの数値になっているということを考えた時に、もしその改定をしなかった場合に、回収率や営業収支比率などの数値がこの評価になったかどうかを考える必要があると思います。

他の指標にも影響を与えるものであるということを考えたときに、この評価で良いかが特に気になりましたので、少しご検討いただけたらと思った次第です。その他、皆様の方から追加でご質問やご意見はございますでしょうか。

【委員】

今の資料の見せ方というところで少し気になった部分があるのですが、人口の見通しであったり、その他の項目というところでR30や32年とかぐらいまで見通しを立てているものと、整備事業なんかは10年ぐらいの5年5年というような見通しの目標だったりとかいうところを立てている部分があるんですけど、これの違いというか、何か意図があって、20年以上先のところまで出してるデータ見通しというのと、10年ぐらいのところで見通しを立てているものは、何か意図なり違いなりがあって、このような想定をされているのかなってというのが1個気になったところですね。

もともとの3年から5年以内の経営戦略の見直しをというところで、5年単位ぐらいというのはなんとなく理解ができるんですけども、すごい先までこれを見通しておかないと、事業があまり計画できないということにつながってくるのかというのを教えていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。想定されているスパンに統一性がないのではないかと、何か意図があってのことですかという質問です。

【事務局】

まず、最初の人口見通しの件ですけれども、資料3の4ページを確認していただきたいんですが、経営戦略の計画期間に投資・財政期間というものがございますので、人口についてはそこに合わせていっております。

整備期間についてですけれども、経営戦略の計画期間、ここは令和11年度という形になりますので、そこに合わせていっております。そういう形で生じていることは承知しております。

【会長】

その他皆さん、細かい点でも結構かと思いますので、お気づきの点あればご意見、ご質問をいただければと思いますが。

【委員】

12ページに経営状況に関する分析ということで、前回策定された経営戦略をベースに、各項目を記載されているかと思うのですが、下水道事業は財源構成を見ると一般会計からの繰入金がありまして、その中に基準内繰入金と基準外繰入金があって、割と基準外繰入金というのが大きなファクターになると思うのですが、あえてここに記載されてないっていうのは何か理由があったのでしょうか。すでに前回の経営戦略でこういう形にされているので、この形でいいかと思うのですが、後々、一般会計繰出金、財源の話も先で出てきそうな雰囲気、目的の中に入っているんで、あえてここで議論をする必要はないと思うのですが、ここに入れられなかった理由だけ教えていただけたらと思います。

【事務局】

特にはないです。

【会長】

また、次回ですね。そういった数値の確認も我々の方でできるのではないかと思いますけど、その時にということにしましょう。

他はいかがでしょうか。それでは皆さんよろしかったでしょうか。

先ほど皆様のご意見を踏まえて、少し私の方からもコメントはさせていただきましたので、特に私からも追加的に何かをとということはないのですが、改めて確認をさせていただきますと、今回、この経営戦略の改定というのは、1つのゴールということになっておりますので、今回の改定で何を特に力点を置いてお示しをするのかということで、またそのお示しをするにあたって、どう

いう人たちを意識しながら見せていくのかという点も含めて、最後、全体的に次回の内容、第6章以降も含めて、最後は少し全体の精査が必要なのかなと思いました。少なくとも今日は第1章から第5章という、限定された範囲ではありますけれども、今申し上げたような観点が必要ではないかというご意見をいただいたように思います。

また今の話とも関わるのですが、例えば、私の方からも少し意見を述べさせていただいたような観点ですね。要するに、今回検証するということになっているのですが、その検証の中身がこれでいいのかということですね。中身といますか、評価がこれでいいのかということについては、少し検討の余地があるのかなと。最終的にやはりこの形が望ましいという結論もあろうかと思うのですが、一度は少し考えていただくことをお願いしたいと思いました。

あと、改定版第5章の具体的な事業の中身についても、言い出すとしなければいけないことがたくさん出てきたりしますが、これも財政面と一体的に本来議論しなければ、夢物語みたいなことになってしまいますので、今日のところはあくまでお出しいただいた情報に基づいて、皆さんからご質問や、あるいはもっとこうした方がいいのではないかというご意見をいただきましたので、最終的にはその取捨選択をしていかなければいけないと思いますので、引き続き、次回の審議会に向けて、事務局内でご検討いただければと思います。

いずれにしても、基本的には今回お示しいただいた事務局案ということに、大きな反対はないということでよろしかったでしょうか。細かい点だとか先ほど申し上げたような観点とか、そういうのはまた事務局の方でご検討いただいて、次回以降ご回答いただくということで、基本的には事務局案をベースに、引き続き進めていただければと思います。

大きなご異議はないようですので、そのように進めさせていただけたらと思います。必要な修正があるということを最終的に事務局の方でもご判断されたのであれば、次回の会議でお示しいただければと思います。

○その他

【会長】

それでは、本日の案件は以上ということになりますので、その他の方に移らせていただきたいと思います。

事務局からその他でもし何かございましたらお願いします。

【事務局】

今回の開催日につきましては、日程調整の結果、12月20日金曜日午後3時からの開催を予定しております。場所につきましては、市役所の別館3階の第三会議室になります。別途改めて通知させていただいておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【会長】

ありがとうございます。次回の審議会ですが、皆さんご存知かと思いますが、12月20日金曜日午後3時からということでございますので、再びご参集いただければ幸いです。

以上をもちまして、第2回の審議会終了とさせていただきます。本日も長時間にわたりどうもありがとうございました。